琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.56
2017. August

発行者　琉球病院事務部長
有岡　雅之

基本理念　この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

第6回国立病院機構「精神医学セミナー」in沖縄に参加して

精神科医師　栗原 雄大

私は今年度4月より国立病院の琉球病院に赴任し、このようなセミナーに参加させていただきました。

セミナーには全国の国立病院機構の先生が来沖されており、さまざまな発表や症例報告を聞くことができ、貴重な時間となりました。

私も発表させていただきましたが、発表の際の文献検索や、勉強などを通して自らの知識を深めることにもなり、とても有意義な経験でした。

私の以前の勤務地である大学病院では、県内で診断や治療が困難な症例が集まる傾向にあり、重症の気分障害、発達障害、解離性障害、摂食障害、認知症、統合失調症など、幅広い疾患を見ることが出来るのが特徴の病院でした。

今年からはアルコール病棟に配属となっておりますと、アルコール依存症と「重複障害」ということに関し現在興味を持つようになりました。

そのような中で、セミナーでは久里浜医療センターの「重複障害マニュアル」という存在を知ることができるなど、このような交流は若手医師として成長する上では必要なものだと感じました。

セミナーでの経験を生かし、今後も琉球病院でお役に立てるような医師を目指していきますので、職員、コメディカル、先輩医師の皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

院　長

福治康秀(ふくじ　やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

精神科病棟	181床
認知症	50床
アルコール	54床
児童思春期ユニット	4床
重症心身障がい	80床
医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

●アクセス

路線バス／那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自 動 車／那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

NHO PRESS～国立病院機構通信～について

琉球病院は、国立病院機構(NHO: National Hospital Organization)という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS～国立病院機構通信～」を発行しています。 外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

NHO PRESS　検索　QRコード

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
  - 進捗状況　本体工事：新病棟（第１期工事）完成 ・・・・・・・・・平成27年７月
  - 新病棟（第２期工事）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(株)九電工
  - 雨水配水管盛替工事　完成予定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・平成29年2月
  - 重心病棟建替等工事　完成予定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・平成30年10月

教育・研修

- 琉球病院盆踊り
  - 日時：平成29年8月10日(木)14:00 ～ 15:30
  - 場所：あしびなあ体育館

地域医療連携室だより

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております

一般精神をはじめ、アルコール依存症（アディクション全般）、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、）認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。

また、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい質の医療を提供し、適切な対応ができるよう充実した取り組みを行い、地域のニーズに応えられるよう日々努力していきたいと思っております。また、受診のご相談はお気軽に地域連携室までお問い合わせください。

空床状況　7月26日現在

精神科病棟	認知症	アルコール	児童思春期ユニット
3床	2床	5床	1床

※ 入院予約に関するお問い合せは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15（土・日・祝日以外）
TEL：098－968－2133（代）
内線：231・234
地域医療連携室(直通)
TEL：098－968－3550
FAX：098－968－7370

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は211例になりました。平成29年6月のCLZ導入は2例で、他の病院からご紹介の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成29年7月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

沖縄県からの委託事業である「こどもの心の診療ネットワーク事業」の一環として、7月3日～ 4日の2日間、兵庫県こころのケアセンターより亀岡智美先生をお招きし、子どものトラウマケアに関する研修会を開催しました。医療機関、児童相談所、児童養護施設、保健所等から述べ45名の方にご参加頂きました。

子どものトラウマケアという専門性の高いテーマでしたが、たくさんの事例を挙げながらとてもわかりやすくご解説いただきました。受講後のアンケートでは、全ての参加者が「非常に参考になった」と回答し、「もっと勉強していきたい」「また同じテーマの研修を開催してほしい」という声も多く挙がるなど、学びの多いとても充実した研修会となりました。

今後も当院では子どもの心に関する研修会を実施予定です。HPやマンスリーでお知らせしますので、ぜひご参加ください。

認知症医療

東Ⅲ病棟では、7月10日(月)に作業療法士、病棟スタッフの皆さんの協力のもと、夏祭り会を開催しました。

7月と聞いたら何を思い出しますか?との声掛けに、多くの患者様から【七夕】との言葉があがりました。病棟内に立派な竹を準備し、各自で短冊へ願い事を書き入れ、飾り付けを行いました。

その後はカラオケ大会が行われ皆さん美声を振るっておりました。カラオケ点数上位3位の皆さんへ、病棟よりコーラーの景品が贈呈されました。

これからも患者様の楽しめる病棟ﾚｸを係と共に計画していきたいと思います。ご協力宜しくお願いします。

重症心身障がい医療

7月20日(木)、7月21(金)に国立病院機構本部(東京)にて強度行動障害医療研修が開催され、全国から88名の参加がありました。私もファシリテータとして参加させて頂きました。本研修は一昨年からはじまり今回で3回目を迎えます。強度行動障害の専門療育として行動療法の研修です。講義のあとに事例をもとにしたグループワークを設定し、より実践的な研修となった事と思います。

また、強度行動障害の施策については制度的な課題が残されており、利用者の養育環境を損なわないよう関係機関へ働きかけていく事が必要となっています。そして、治療機関として治療後及び状態によっては地域移行を視野にいれ、より利用者が豊かな生活が過ごせるよう支援してまいります。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では7月現在、外来通院の患者様75　名、入院中の患者様27　名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

現在、訪問看護登録数は255名です。平成29年7月の新規訪問看護利用者は5名、再開の利用者が7名でした。訪問看護の役割りは、地域社会での生活を支えつつ、病気の再発防止に役立つことや、様々な職種との連携・地域の関係機関とのコーディネーターとしても重要な役割りを担っています。7月に退院された利用者様が、病院受診を拒み幾度と入退院を繰り返していましたが、今回、地域・家族・訪問看護と連携を密にとり初診外来につなげることが出来ました。

気温が高い状態が続き、発汗にて水分や塩分が失われ、家にいても熱中症になることもあり訪問看護でも、常に観察や注意喚起の声かけを行っています。意識的にスポーツドリンクやミネラル入りの麦茶を飲んで予防につとめましょう。

臨床研究部活動状況

「熊本地震DPAT隊員へのアンケート分析」　副院長　大鶴　卓

本研究は、熊本地震で活動したDPAT隊員のアンケート結果を分析することで、DPAT活動に必要な精神保健医療機関のネットワークや関係する機関のフェイズごとの役割と連携のあり方を明確化することを目的とした。本分担研究により熊本地震では、様々な精神科関連機関より派遣されたDPAT隊が発災直後から中長期のフェイズに渡り、本部機能から現地活動まで幅広いDPAT活動を行ったが、6割のDPAT隊員は過去に支援経験がなく、研修未受講の状態で活動していたことがわかった。

本分担研究で、DPATや災害医療に関する認識・知識は、DPATに関連する研修受講歴がある群が高く、支援経験の有無は関係しないことが分かった。DPATは発災直後より中長期的に幅広い活動を行う組織化された災害時の精神科医療チームである。そのため、災害関連の他の医療団、被災地の行政・医療機関、NPOなどのボランティアなどとの連携は必須であり、DPAT関連の研修を受講しDPATや災害医療の知識を備えておくことが非常に重要と考えられた。

厚生労働科学研究　障害者政策総合研究事業（精神障害分野）「災害派遣精神医療チーム（DPAT）の機能強化に関する研究」分担研究報告書　研究要旨より抜粋

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室(直通)　ＴＥＬ　098－968－3550
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370